

支援業務課 NEWS

全国発表会への推薦経営が決定 ～平成17年度全国優良畜産経営管理技術発表会～

中央畜産会・全国肉用牛振興基金協会の主催による「平成17年度全国優良畜産経営管理技術発表会」が10月20日に東京都内で開催されます。

昨年は、本県より推薦した3事例のうち酪農経営事例が最終審査に残り優秀賞を獲得しました。

7月28日に平成17年度の推薦事例選定のための地方審査委員会を開催し、酪農経営、肉用牛経営、組織・グループ活動で、各1事例を推薦することに決定しました。

各事例の特徴と取り組み内容を以下のとおり紹介します。

(酪農経営)

有限会社 栗林牧場

取締役 栗林 仁司 氏 (和島村)

(有)栗林牧場は、代表取締役である父の時代から50年近い歴史をもった経産牛50規模の酪農専業経営で、昭和57年に酪農2代目として就農した仁司氏が、昭和63年に有限会社として法人化を図ったものです。飼料畑の確保が難しい地域条件の中で、施設・機械投資を最小限に抑えた経営方針を貫き、牛群審査、牛群検定、酪農経営データベース等の成績を活用して牛群改良を図り、エクセレントを3頭排出する等、県内トップクラスの改良技術を有しています。

一方、環境保全面では昭和51年に建設した共同堆肥センターが手狭となったため、平成11年に攪拌式発酵処理施設を共同で建設し、地域内の水田での堆肥利用体制の整備、拡大を図ってきています。

また、地域の公共機関と連携してシュレッダーによる裁断紙を子牛の敷料としてリサイクル利用する取り組みを行う等、地域に根ざした酪農経営を実践し技術、経営の両面で安定した経営を確立しています。

(肉用牛経営)

漆間 平氏 (村上市)

漆間氏は昭和47年に肥育経営を開始後、夫婦の信

頼と努力により黒毛和種肥育牛85頭と水稲280aの複合経営に発展させて来ており、高品質の枝肉生産技術を確立して高い経営成果を上げています。本人は平成6年から11年間にわたり村上市和牛振興組合長を務め、村上牛の銘柄確立と村上牛配合の供給実現に尽力されてきました。また、消費者交流会や小学生のふれあい体験農場として、生産現場から安全な牛肉をPRすると共に、地域の飲食店等と連携して地産地消の推進を図っています。現在は、にいがた和牛肥育名人に認定され、後継者の育成にも熱心に取り組んでおり、地域、県内の和牛肥育経営基盤の拡大に努めています。

一方、ふん尿は100%土地還元を基本とし、7人で稲作集団「こがね会」を組織して稲わら収集と堆肥散布を行い、岩船米の品質向上に向け地域循環型農業を実践しています。

(組織・グループ活動)

妻有畜産グループ (十日町市・津南町)

当該組織は昭和60年に中山間地域における養豚経営の体質改善と個別経営の発展並びに安定を目的として設立され、現在は10戸の構成員が幅広いグループ活動により成果を上げています。主な活動内容は飼料・生産資材の共同購入、定例経営検討会の開催、画像妊娠鑑定器の活用、隔離豚舎組合等による地域防疫体制の確立、HACCP方式の考え方を取り入れた飼養管理の実践、村おこし活動の実施や組織活動への積極的な参加等です。これらの活動により、グループ員個々の経営ではコスト低減、財務内容の改善が図られ経営規模の拡大につながっています。また、防疫体制の徹底により地域からオーエスキー病・PRRS等の疾病が排除され、清浄化が図られているほか、グループ構成員全員がクリーンボーク生産農場として認定され、統一化した飼養管理マニュアルで生産された豚肉は安全・安心・高品質な「妻有ボーク」として販売されています。さらに、地産地消運動と結びついて地域内の学校給食の食材としてもほぼ全校で採用されており、養豚経営の安定的発展と共に、地域農業の活性化や振興に大きな役割を果たしています。

～輪を広げよう「畜産・女性ネットワーク」～

8月29日に東京港区虎ノ門「虎ノ門パストラル」において「畜産に携わる女性ネットワーク」の発足式が行われました。全国各地、北海道から沖縄まで畜産に携わる女性が東京に集まったの発足式でした。当日の参加者は250名を越える多数の参加であり、本県からも参加しております。

目的は「全国の畜産に携わる女性達が飼養畜種を超えて集まり、会員相互の交流を通じて、お互いの資質を高めるとともに、消費者との交流を通じて畜産への理解を醸成すること等により、より魅力ある我が国畜産の実現を目指すこと」であり、名称、規約、活動計画、平成17年度の収支予算、平成17年度世話人等が決定されております。

～県内参加者の一言メッセージ～

「全国縦断いきいき畜産女性ネットワークに参加しませんか」：新発田市大友 宮野 智子

○ 畜産業は女性の力がなければ成り立ちません。こんな時だからこそ仲間と共に地域へ行政に声を発信する場が必要だと思います。大きな財政支援があるわけでもないのですが集まった女性達の熱い思いと頑張りだけはずごいものがあります。全国に発信する為にも地域にもこのネットワークがあったらと私は思っているのですが、県内で畜産業に従事している皆さん、いかがですか。この輪を広げようではありませんか。どんなにITや通信の発達があっても人と人が会い顔を見、話し合うことは一番大切なのではないのでしょうか。貴方も参加しましょう。

「あつい畜産農家の母ちゃん」：津南町貝坂 桑原 朋子

○ 熱かった。外も暑かったが、全国各地から集まってきた畜産農家の母ちゃん達は、すごかった。パワーが溢れんばかりだった。私の目は常に瞬きすることなく見開き、圧倒されっぱなしだった。「牛飼いの手伝いではない。私は牛飼いだ。」と胸を張れる母ちゃん、大勢の人の中で堂々と自分の意見を言える母ちゃん達、途切れることのない質問と意見の中に母ちゃん達の生き様が見えるようだった。土に汗水を染み込ませながら、どんな辛い事も悔しさも全て乗り越え、前向きに自分の足で踏ん張ってきた、その姿が見えたような気がしました。

「畜産・女性ネットワークの発足式に参加して」：津南町赤沢 滝沢 直好

○ 富山でOLをしていた私が結婚したのは、長岡のサラリーマンだったはずなのに…！翌年には夫が家業の養豚を継ぐために津南町へ。二人の息子の出産と育児に追われ、気が付くと既に7年が経過…。年中無休の仕事と三度の食事の仕度、大量の洗濯物、仕事と家庭の区別のない生活など畜産農家では当たり前の事も、私にとっては戸惑うことばかりで、同じ環境の人に相談できたらと思うことも多くありました。今回、畜産に携わる女性ネットワークの発足式に参加させていただき、畜産に携わる女性の皆さんが自信に満ち溢れ、生き生きとしていることに驚き、感動しました。